

千葉県ドローン宅配等分科会（第3回）議事要旨

1. 日時 平成30年10月24日（水）9:00～9:33

2. 場所 ホテルグリーンタワー幕張 3階チェルシー

3. 出席

田村 計 内閣府地方創生推進事務局長

熊谷 俊人 千葉市長

野波 健蔵 千葉大学 名誉教授

向井 秀明 楽天株式会社 ドローン・UGV事業部 ジェネラルマネージャー

各務 徹 三井不動産レジデンシャル株式会社 執行役員 千葉支店長

中川 雅之 国家戦略特区ワーキンググループ 委員

飛田 章 内閣府地方創生推進事務局参事官

<オブザーバー>

徳永 博樹 国土交通省航空局安全部安全企画課無人航空機企画調整官

荒幡 雅司 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室係長

石黒 丈博 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐

4. 議題

(1) ドローン宅配の実現に向けた検討状況について

(2) 宅配デモンストレーションについて

5. 配布資料

資料1 技術検討会 提出資料

資料2 楽天株式会社 提出資料

参考資料1 千葉県ドローン宅配等分科会 出席者名簿

参考資料2 千葉市のドローン宅配等の取組み

○飛田参事官 皆様、おはようございます。

ただいまより、第3回「千葉市ドローン宅配等分科会」を開催いたします。

出席者につきましては、時間の制約もございますので、お手元の参考資料の出席者名簿をもって御紹介にかえさせていただきます。

また、有識者といたしまして、国家戦略特区ワーキンググループの中川委員にも御臨席いただいております。よろしくお願いいたします。

まず、初めに、千葉市熊谷市長より、御挨拶をお願いいたします。

○熊谷市長 皆様、おはようございます。

本日、第3回「千葉市ドローン宅配等分科会」を、内閣府を始め、関係の皆様とともに開催できることを大変うれしく思っております。

ドローン宅配の実現に向けては、野波先生を座長とする技術検討会において実証実験などに取り組んでいただいております。改めて感謝を申し上げます。

この幕張新都心は、2020東京オリンピック・パラリンピックの会場となる幕張メッセを有する未来型の国際都市であり、国家戦略特区を活用した先駆的な取組みを進めることで、一足先の未来を見ることのできる街であり続けたいと私どもは考えております。

本会議の後には、来年の春に第1棟の入居が始まる若葉住宅地区において、三井不動産レジデンシャル様御協力のもとで、楽天様による実際の宅配をイメージしたデモンストラーションが予定されております。

新しい街づくりが進む、この幕張新都心において、近未来のドローンによる宅配の姿をイメージしていただける機会であり、楽しみにしております。

全国に先駆けて、都市部での宅配の実現に向けて、本市も最大限力を注いでまいり所存でございます。引き続き、関係各位の御協力をお願い申し上げます。私の挨拶にかえさせていただきます。

今日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

○飛田参事官 熊谷市長、ありがとうございました。

続きまして、内閣府を代表いたしまして、地方創生推進事務局長の田村から御挨拶申し上げます。

○田村局長 皆さん、おはようございます。

内閣府の地方創生推進事務局長の田村でございます。本日は、よろしくお願い申し上げます。

今回、第3回の「千葉市ドローン宅配等分科会」ということで開催をさせていただきます。関係の皆様には、大変御協力を賜りましてありがとうございます。

前回、分科会が開かれましたのは、2年前ということでございますけれども、国家戦略特区におきましては、この間におきまして、近未来の技術実証ワンストップセンターを設けるための法改正も行い、千葉市におきましては、全国初となるドローン実証ワンストッ

プレゼンターの設置をいただいております。

また、さらに制度改革をするということで、この前の通常国会におきまして、ドローン実証も対象とする、いわゆるサンドボックス制度を設けるための改正法案も提出をさせていただきました。

残念ながら、前国会では、いろいろ国会情勢の中で、法案の成立を見ていないものでございますけれども、この法案の成立に向けまして、引き続き我々も努力をしたいと考えております。

本日は、ドローン宅配の構想につきまして、野波座長から御紹介をいただけるということであり、また、実際の宅配のイメージということのデモンストレーションもあるということで、私もとても期待をしているところでございます。

本日、御出席の熊谷市長を始めとする皆様とともに、都市部におけるドローンの宅配の位置付けに向けて、一体となって取り組んでまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○飛田参事官 ありがとうございます。

それでは、プレスの皆様におかれましては、御退室のほうをお願いしたいと思います。

(プレス退室)

○飛田参事官 それでは、議事に入らせていただきます。

議題1のドローン宅配の実現に向けた検討状況につきまして、御報告いただきたいと存じます。

配付資料について、技術検討会座長野波千葉大学名誉教授から御説明をお願いいたします。

○野波名誉教授 それでは、約10分近く時間をいただきまして、資料1に基づきまして御説明をさせていただきます。

前回の第2回分科会は、平成28年11月22日でございます、あれから2年経過をしたわけでございます。本日は、第3回ということで、この間、約2年間技術検討会でさまざまな検討を行ってまいりました。これについて、御報告をさせていただきたいと思っております。

まず、表紙を1枚めくっていただきまして、1ページ目でございますけれども、千葉市において目指すドローン宅配とはどういうものであるかということで、もう一度振り返りながら簡単にオーバービューをさせていただきます。

まず、市川付近の物流倉庫、具体的には、楽天を中心とした物流倉庫の付近から離陸をしまして、東京湾を真っすぐ飛びまして、花見川に行きまして、花見川を遡上しまして、幕張新都心、現在建築中の、第1棟は来年春入居でございますけれども、若葉住宅地区に物を運ぶという構想でございます。

ここに大きく2つの構想がありまして、長距離水平飛行約13km、それから、高層マンションでございますので、垂直飛行というのがございます。

優位性としては、そこがございますように、たくさんの物流倉庫が東京湾の周辺にござ

います。そして、たくさんの人口を有するという立地条件であると。優位性には、基本的に東京湾上空を飛行するという一方で、万が一何かトラブルが起こっても大きな二次的な被害はないであろうということが優位な点の2番目でございます。

そして、現在、建築中の若葉住宅地区、約4,500戸の住宅が完成するという一方で、多くの人口を抱える千葉市として、また、未来型都市としてドローンという新しい技術を実装した未来都市ということで描いているということでございます。

次の2ページになりますが、分科会・技術検討会のこれまでの取り組みということでございますけれども、御覧いただきますように、平成28年4月11日に第1回、これは千葉市で会議が行われましてキックオフということでございます。

第2回が、先ほど申し上げた11月22日、2年前でございます。

また、第1回から第9回まで、さまざまな技術検討会を行ってまいりました。

少し飛んで10ページを御覧いただきたいのですが、現在、この技術検討会に参画いただいている企業のロゴが入っております。amazon.comから三井不動産レジデンシャルまで、計20社の皆さんの御協力、御支援をいただきながら、このプロジェクトは粛々と進行しております。

また、国土交通省、経済産業省、総務省等の国の機関からオブザーバーとして御参画いただいておりますし、また、自治体としまして、千葉県、市川市、船橋市、習志野市の皆様からの御支援、御協力をいただいているということでございます。

次の3ページでございますけれども、これは、平成28年4月11日に行いました公開実験でございます。

御記憶にあるかと思えますけれども、大型商業施設の屋上からワインボトルを搬送するという一方で、公園から高層マンションの屋上に薬を運ぶというようなデモフライトを行ったところでございます。

次の4ページでございますけれども、さらに細かく技術的な検討を行ってまいりました。平成28年7月27日には、タイプエスの御協力をいただきまして、気象観測ということを行いました。

特にドローンが飛行する高度は、大体50mから130m程度の非常に高いところを飛びますが、そのあたりの気象は、なかなか正確に測れないということで、実際に、この時には高度を上げて、温度、気圧あるいは風速等を測ったところでございます。

また、10月3日でございますけれども、NTTドコモ、ACSLの御協力をいただきまして、特にここでは、LTEの通信の実証実験であるとか、あるいは電波のLTE通信を行うに当たって、高度を上げた場合に通信が可能なのかどうかというような検証を行ったところでございます。

次のページにまいりまして、5ページでございます。

ここでは、特に稲毛海浜公園のところで行ったデモフライトでございますが、平成28年11月22日、約2年前でございます。

ここでの目玉は、二子玉川にあります楽天本社のところから約40kmの距離がございますけれども、そちらから、LTE通信、携帯電話の通信回線を使って遅延なく飛行させたということが大きな目玉でございます。実際には、その絵でございますように、海岸から飛び出しまして、一旦海に出て、そして、海浜公園のほうに入ってくる。それで、熊谷市長のほうで、実は、スマホでオーダーをしていただいて、たしか本とモバイルバッテリーだったのでしょうか、それを注文していただいて、実際に受け取りというのも行ったところがございます。

また、この段階で課題というところにもございますけれども、ドローン宅配の実証実験に当たり、第三者上空飛行が全く許可されていないという現状を考えまして、やはり、これに関して、レギュラトリー・サンドボックスという内閣府で取り組んでいただいている新しい実験の姿というものを、ぜひ、積極的に検討していただきたいということで、お願いをしたところがございます。

さらに、ステークホルダーとの協議で非常に時間がかかるということでございまして、こちらに関しても提案したところがございます。

次の6ページを御覧いただきたいと思っております。

長距離飛行ということで、東京湾上空を飛行するのですがけれども、平成29年6月20日には、東京湾の上空を飛行するというを行いました。実際、飛行距離は12.8kmです。真っすぐ幕張まで飛行するとしますと、ほぼ13km近くということで、距離的には、ほぼ同じということです。

ただ、いろいろ制約がございまして、船の上を飛行することは、やはり危険であるとか、のり養殖場がかなり大きな場所を占めておりまして、その上空を飛行するのは、第三者上空に該当するというので、私どもは控えたということでございまして、東京湾の中ほどで、また、折り返したというようなことを行っております。この時の飛行速度は、時速50km、高度は70mということでございます。

次の7ページでございますけれども、これは、つい先日9月18日に行った実験でございますけれども、千葉美浜生鮮センターで行いました。

実際に、市川の物流倉庫から離陸をして東京湾に出るという姿を描いたものでございます。したがって、最初は、非GPS環境からの離陸ということで、画像処理をした新技術の活用を実際に検証したということでございます。

次の8ページは、これまで行ってまいりました技術検討会のまとめをしているところがございます。

これまで、さまざまなことを行ってまいりましたが、本日は、次に御説明をいただきます、楽天の御説明でございますが、赤で囲われている今回のデモンストレーションということで、詳細は、後ほど御説明をいただくことといたしまして、今度は、どのように搬送物を受け取るかということでございます。

一応、これで搬送物を受け取れますと。残った課題としては、東京湾上空をどのように

飛行するかという課題とか、あるいは、非常に重要なのですが、花見川に入ってから、ここにございますように、道路が4本、JR京葉線がございます。これをどのように横切るかという、かなり難問が控えておりまして、ここは、やはり、サンドボックス制度等の活用により、新しい技術開発等を含めて実現をしていきたいと思っていますところです。

現在、山間部と離島部で開催されようとしている検証実験があります。楽天は埼玉県秩父市で、ACSLは福島県南相馬市で、あるいは長野県白馬村でも山小屋の搬送とか、それから、岡山県ではFuture Dimension Drone Instituteという会社なのですけれども、自動車とドローンを活用してハイブリッド配送をするとか。あと、ANAホールディングスの福岡市での実験、これは、大きなタンカーの荷物を海岸まで、今は舢舨等の小さな船で運んでいるそうですけれども、これをドローンで完走する。さまざま取組みが、これから開始されようとしております。

そういう中で、千葉市のプロジェクトが、また、都市部でのプロジェクトということで、他に例のないプロジェクトということで大変期待されているところでもございます。

以上、これまで第9回の技術検討会までの御説明をさせていただきました。

○飛田参事官 ありがとうございます。

続きまして、議題2の宅配デモンストレーションについて、楽天株式会社の向井ジェネラルマネージャーより、御説明をお願いいたします。

○向井ジェネラルマネージャー ただいま御紹介にあずかりました向井です。よろしくお願ひいたします。

本日は、楽天として、主体企業として今回のデモを実施させていただけることを非常にうれしく思っております。

また、このデモを実現するに当たり、千葉市の皆様、そして、三井不動産レジデンシャルの方々には、本当に多大なる御協力をいただきましたので、この場をかりて御礼申し上げます。

この後、デモを実施しますが、やはり、デモをやる目的というのは、先ほど、野波座長からも御説明がありましたとおり、しっかりとサービスとして2020年までに実現することです。このビジョンのためにデモを行うことこそが、我々サービス事業者としては大事なものだと考えています。

サービスを実現するためには、先ほどの線路の上を越える、また、第三者上空を飛ぶ、そして、道路の上を飛ぶ、そういったところを一つ一つ解決していく必要があります。これらの課題を、どうやって、これから2018年、2019年と検討していくのか、そして、この特区というすばらしい仕組みを使って、どうやって乗り越えるのか、それをぜひ、この場で皆さんのお知恵もお借りしながら検討できれば、非常にうれしく思います。

今日お見せするデモは、都市部の高層マンションでどうやって無人で、ロボットが人まで荷物を届けるのか、そういったところもお見せできるようなデモになります。ぜひ、デモから利便性を感じていただいて、この利便性であれば、しっかりと社会実装に進むな、

という実感を持っていただけると、非常にうれしく思います。

では、これから、本日のデモのより詳細の説明に移らせていただきます。

まず、1枚めくっていただきまして、スライド2ですが、こちらに、これまでの楽天の取組みをサマリーとしてまとめてあります。

2016年の5月から6月に、こちらは千葉県ゴルフ場になりますが、世界で初めて、本当に一般の方々に向けてドローン配送サービスを実施しました。

その後、さまざまな実証実験をやってきましたが、2016年の11月には、こちらで千葉市の熊谷市長にも注文をいただきながら、LTEネットワークを活用したデモも実施できました。

さらに、2017年には南相馬市におきまして、ローソン様と連携して半年間、過疎地においてローソンの「からあげクン」や、肉まんなどをお届けしました。そういった形でこれまでドローン配送技術を磨いてきています。

この後、2019年以降、しっかりとDIDと呼ばれる地域においても、社会実装を目指していきたいというのが、楽天のこれまでの取組みとビジョンになっています。

次の3ページ目ですが、これがまさに、このDIDである千葉市で実現したいサービスのビジョンとなっております。

弊社の楽天フルフィルメントセンターというのが左手にあります。海上を飛行して、幕張ベイパークのマンションまでお届けするというものです。

当初は、ベランダや屋上に届ける等の、いろいろなやり方を検討しましたが、地上配送ロボットとの連携が一番現実的ではなかろうかという仮説がありまして、今回、そのデモをお見せできるまで準備が整ったというところです。

もちろん、海上飛行など、これから検証をしなければいけないところはありますが、このスライドに示してある内容が大きなビジョンとなっております。

次のページは2016年に行ったデモの振り返り（概要）です。この時は、飛行距離はそれほど長くないのですが、やはり、まだまだドローンというものが目新しいもので、東京湾を本当に飛べるのかなどを含めて検証しました。

また、LTEを上空で使うという前例がありませんでしたので、ドコモ様にも協力をいただきながら実証して、そして、無事に注文から飛行指示、フライト、お届け、の一連の流れをLTE電波を使い、またドローンを使い、実証できたという非常に大事なマイルストーンとなりました。

次に5ページ目になりますが、こちらが、今回のデモンストレーションの流れになります。

まず、前回と同じように、弊社で開発しております、スマホのショッピング用のアプリケーションを使っていただき、これでお客様に御注文をいただきます。このアプリケーションにも、日々小さな改良を加えていますので、そういったところも、今日、御覧いただけるかと思えます。

そして、注文をした後、荷物を詰め、飛行指示されたドローンが幕張ベイパークの前ま

で物を運んできます。その運んできたものをコンシェルジュさんが、幕張ベイパークにいますので、コンシェルジュさんが拾い上げて、地上配送ロボットに入れます。入れた後に、行き先の部屋番号を押すと、ロボットが自動的にその部屋まで運んでいきます。

このロボットは賢くて、エレベーターに自動で乗って、目的地まで行く機能も備えておりますので、今回は、モデルルームなので2階しかないのですが、今後、40階、50階のような高層マンションであっても、どこの部屋にでも、しっかりとこのロボットが運べます。こういった動きをするのかとか、そういったところも、今日、御覧いただければなと思います。

利用のストーリーは、もちろん、こういった場ですので、都心部の高層マンションに住んでいる方を対象とした、ドローンとロボットが注文したらすぐ届けてくれるというものです。デモを通じて、このようなシーンを実感いただけると、これは便利だなというのがわかっていただけるのかと思います。

活用のシーンとしては、すぐに物が欲しい、コンビニにすら行けないという状況です。風邪で外に出られないといった時に、この様なサービスがあると非常に助かるのかなと思っております。

そして、今回、注文していただく商品は、風邪薬、マスク、冷却シートです。

では、次の6ページ目を御覧ください。

これは、今回の飛行ルートです。飛行ルートは、花見川上空飛行という、本プロジェクトの全体像において非常に重要なパートを占める部分と、若葉3丁目上空の飛行、つまり、幕張ベイパークのマンションまでどのように飛行させるべきか、といったところを検証するための飛行ルートが含まれた、最後のラストワンマイルの部分の飛行経路となっております。合計の飛行経路は、往復で約1.2kmとなっております。

本当は、東京湾から京葉線等を越えて入ってきたのですが、その課題は、また次回以降、しっかりと検証する必要がありますので、ラストワンマイルの部分に注力して、今回はデモを実施したいと思います。

では、次の7ページ目ですが、弊社の楽天ドローンというサービスがこういったものかというのを簡単に御説明してあります。

2つ目のポツで「完全自律飛行ドローンで注文商品を配送」と書いてありますが、離陸ボタンを1つ押すだけで、離陸、飛行、着陸、荷物の切り離し、再離陸して戻っていくところをやってくれますので、操縦者というものは一切不要です。ただ、法律がありますので、しっかりと操縦者は、常に現場には備えています。実際には、どのような素人の方でも指一本で操作できるような、そんなドローンになっています。

また、ソフトウェアは、当然、楽天は得意ですので、いろいろと便利に、お客様に使いやすいように作り込んであります。

次に8ページ目ですが、ショッピングアプリにつきまして、今回も操作していただきますが、重要なところは、重量インジケータという機能となります。2年前にデモをして

から今日に至るまで、eコマースで重さをアプリ上で表示する、そんなソリューションは出てきておりません。やはり、空で物を運ぶ、重さにセンシティブなものでないと、こういったものは必要ではないというところで、逆にこういった機能を備えたアプリを開発しドローン配送を実現するというのが大事なのだなと実感している次第です。

次に、最後、9ページ目になりますが、今回は、ドローンと地上配送ロボット、この2つの連携で実施します。

なぜ、これが必要と考えているかといいますと、過疎地において、空き地にドローンで着陸して、荷物を置き去りにするというシナリオは、多数行われていますが、それでは、住民の方が取りに来なければなりません。既存の宅配は非常に便利で、必ずドアの前まで届けてくれるので、利便性としては少し下がってしまっているのです。そこを何とかドアの前までお届けするという究極の利便性まで高める必要があるだろうと。そうなると、地上配送ロボットとの連携技が必要になってくると考えます。

そして、ドローンから地上配送ロボットに自動で組みかえるという技術も必要になってきます。今回はコンシェルジュさんに頼るのですが、最終的には、そこまで見据えたデモになるという点も念頭におきながら、見ていただけるとうれしいなと思っております。

今日、この後、突然雨が降ったり、突風さえ吹かなければデモは実施できると考えておりますので、そちらで全てを御覧いただければ幸いです。

以上です。ありがとうございます。

○飛田参事官 ありがとうございます。

続きまして、今回の宅配デモンストレーションの協力事業者であります、三井不動産レジデンシャル株式会社執行役員・千葉支店長の各務様より御発言をお願いいたします。

○各務執行役員・千葉支店長 三井不動産レジデンシャルの各務でございます。

御紹介いただいています、幕張ベイパークですけれども、全体で約4,500戸の住宅と、商業施設のまちづくりになっておりまして、来春に1棟目の497戸の入居がスタートいたします。2棟目の着手にも、今、入っております、2棟目は約800戸ですから、合わせますと1,300戸の住宅が2年後に完成するというまちづくりの状況です。

1棟目は、来春の3月に竣工しますので、まち開きが迎えられるのですけれども、幕張ベイタウンと同様、これからのまちづくりは10年ぐらいかかると思うのですけれども、常にお客様から先進性を期待いただいているところです。

その中で、都市部のドローンの宅配というのは、この先進性をわかりやすく体現する取組みだと思っております、新しい価値としてすごく期待をしているところであります。

ベイパークでのドローン宅配の導入を想像してみますと、やはり、まず、京葉線の上をどうやって飛ぶのかとか、マンションのどこに着陸の拠点を持つてくるのかとか、そこからの配送方法をどうするのかとか、いろんな課題があると思うのですけれども、今後、開発事業者として、そういった課題について積極的に取り組んでいきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

以上です。

○飛田参事官 ありがとうございます。

続きまして、国家戦略特区ワーキンググループの中川委員より、御発言をいただきたいと存じます。

○中川委員 ワーキンググループの中川でございます。

まず、千葉市は、このドローンだけではなくて、遠隔服薬指導など、過疎地とか、そういうところのみに焦点が当てられがちなものについても都市部でと、非常に積極的な御提案をいただいているということに敬意を表したいと思っております。

私どもワーキンググループとしましても、過疎地では、人口減少などを受けてクオリティ・オブ・ライフが下がってしまうかもしれないということが注目されがちですけれども、生産年齢人口がどんどん下がって行って、高齢者が増えるというのは、都市部のほうがどちらかというと深刻でございますので、そういう意味で、クオリティ・オブ・ライフが下がるということについては、都市部のほうこそ、一生懸命頑張らないといけない課題だという認識で、いろんな御提案を聞いているところでございます。

そういう中で、特に大きな財政負担を与えなくて、クオリティ・オブ・ライフを保つためには、ビジネスベースでいろんな工夫ができるというようなことが非常に重要なことだと思っておりますので、例えば、宅配、物流のコストの増加とか、あるいは服薬指導もそうですけれども、そういった面で、こういったことをぜひ実現したいということで、田村局長のほうからもありましたけれども、サンドボックス制度などの制度を用意しているところでございます。

実証実験でございますので、必ず成功するわけでは多分ないと思います。成功も失敗もあって、あるいは課題も明らかになると、そういったものを全てこういう形で公開をして、リスクがあるのであれば、それを事前に明らかにして、技術的に解決できるところは技術的に解決するし、そうでなければ、制度を用意するという形で、情報を全てオープンするという姿勢を、ぜひ、これからも続けていただきたいと思っております。

さらには、基本的に最終的に決めるのは国民だとは思いますがけれども、国民はややリスクがゼロであるというような、そういったような極端なことを求める場合もありますけれども、実際には、利便性とコストとリスクとの比較衡量で決める、社会の制度というのは決められるべきものだと思います。

その時に、どれだけ生活の利便性が上がるのかということを実際に目に見える形で見せてあげる。こういうデモンストレーションというのは、こういったような新しい制度とか、新しい技術の導入に関する政治的な環境を整備するという意味で非常に有効だと思いますので、今回のデモンストレーション、実験あるいは情報公開というものを今後とも進めていただければと思っております。

今日は、非常に楽しみにしております。

○飛田参事官 ありがとうございます。

最後に、千葉市熊谷市長より御意見がございましたら、この機会にいただければと存じます。

○熊谷市長 御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。それぞれのお立場から、この分野に関して積極的に取り組んでいただいていることに改めて感謝と敬意を表したいと思います。

私のほうから参考資料2というのをお出しさせていただいておりますので、御覧いただきたいと思います。

千葉市では、6月の諮問会議におきまして、都市部におけるオンライン服薬指導を提案しているところがございます。中川委員にも、先ほど御意見をいただき、本当にありがとうございます。

やはり、ドローンと薬の宅配というのは、組み合わせとしても大変有用であると思っておりますし、やはり、制限されている都市部でこそ、患者も多く存在している。そして、ビジネスとして成り立つということ。また、治療中断を防止することで、国民の福祉につながるのと同時に、ひいては医療費の抑制にもつながるということを、私からも申し上げたいと思います。

ドローンも山間部や離島などを中心とした目視外飛行が認められる段階になってまいりましたが、同様にサービスの受益者が多く、そして、事業の採算が期待できる都市部において早期に活用すべきと考えております。

都市部におけるドローン宅配の実現に当たっては、第三者上空の飛行許可が不可欠でございます。レギュラトリー・サンドボックス制度においても、その第一歩となるような運用を期待しております。

課題が多く存在することは十分に承知をしておりますが、我が国がこの分野で諸外国に打ち勝っていくためにも、ドローン宅配を始め、都市部での規制改革の実現に向け、ぜひとも皆様方の御協力をお願いしたいと思います。

私からは、以上でございます。

○飛田参事官 貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

本日、提示されました御意見につきましては、今後、ワーキンググループ等で議論を進めてまいります。

それでは、時間になりましたので、第3回分科会を終了いたします。

次回の日程につきましては、事務局より後日連絡いたします。

本日は、ありがとうございました。

この後、10時より、無人航空機と配送ロボットによるマンションへの物資輸送のデモンストラーションを実施いたします。会場まで少し時間がかかりますので、係員が誘導いたします。その場でしばらくお待ちいただければと思います。

ありがとうございました。